



平成 24 年 11 月 9 日

各 位

会社名 株式会社TBグループ
 代表者名 代表取締役会長兼社長 村田三郎
 コード番号 6775 東証第2部
 問合せ先 常務取締役経営管理本部長 信岡孝一
 (TEL. 03 -5684 -2321)

平成 25 年 3 月期 第 2 四半期累計期間 (連結・個別) 業績予想と実績値との差異
 及び通期 (連結・個別) 業績予想の修正並びに特別損失の計上 (個別) に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 24 年 5 月 11 日に公表いたしました平成 25 年 3 月期第 2 四半期累計期間 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日) の業績予想との差異及び平成 25 年 3 月期通期 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日) の業績予想を下記の通りといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値との差異及び業績予想の修正

平成 25 年 3 月期第 2 四半期 (累計) 連結業績予想数値と実績値との差異 (平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 9 月 30 日)

(金額の単位: 百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	2, 3 0 0	1 0	5	5	0. 0 7
実 績 値 (B)	1, 9 9 0	△ 1 6 9	△ 1 9 3	△ 1 9 1	△ 2. 6 7
差 額 (B-A)	△ 3 1 0	△ 1 7 9	△ 1 9 8	△ 1 9 6	—
差 額 率 (%)	△ 1 3. 5	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 3 月期第 2 四半期)	2, 1 3 6	△ 2 1 3	△ 1 9 8	△ 1 0 9	△ 1. 5 3

平成 25 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 25 年 3 月 31 日)

(金額の単位: 百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	5, 0 0 0	1 0 0	9 0	8 5	1. 1 8
今 回 修 正 予 想 (B)	4, 4 0 0	△ 1 4 0	△ 1 7 0	△ 1 7 0	△ 2. 3 8
増 減 額 (B-A)	△ 6 0 0	△ 2 4 0	△ 2 6 0	△ 2 5 5	—
増 減 率 (%)	△ 1 2. 0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 3 月期)	4, 1 4 6	△ 4 8 7	△ 4 8 8	△ 4 2 4	△ 5. 9 3

平成 25 年 3 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想数値と実績値との差異（平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 24 年 9 月 30 日）

（金額の単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,050	5	0	0	0.00
実績値 (B)	1,013	△34	△106	△131	△1.83
差額 (B-A)	△37	△39	△106	△131	—
差額率 (%)	△3.5	—	—	—	—
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 24 年 3 月期第 2 四半期）	1,079	△127	△89	△65	△0.92

平成 25 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 24 年 4 月 1 日 ～ 平成 25 年 3 月 31 日）

（金額の単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,200	30	20	15	0.21
今回修正予想 (B)	2,300	△25	△100	△130	△1.83
増減額 (B-A)	100	△55	△120	△145	—
増減率 (%)	4.5	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （平成 24 年 3 月期）	2,021	△288	△268	△596	△8.31

第 2 四半期累計期間との差異及び通期業績予想の修正並びに特別損失計上の理由

当第 2 四半期累計期間の連結・個別の業績における売上高は、LED&ECO 事業においては業界初の LED 表示機への入力（テキスト・絵文字の書き換え）がスマートフォンにて簡単にできる表示機の発売、更に省電力高輝度タイプの普及型、また業界トップシェアを継続している屋外型デジタルサイネージも新モデルの「BRIDⅢ」を平成 24 年 7 月より発売したことにより業績を回復しました。

新規事業部門は、チェーンストア向けの中型 LED 表示機は堅調でしたが、復興関連の官公需案件は受注が大幅に遅れ、上半期の業績不振の一因となりました。

また、SA 機器事業では電子レジスター事業は、海外事業において欧州危機及び中国カントリーリスク等の影響を受け、生産台数及び売上高とも大幅減少となりました。国内事業は、中小料飲店向けは大幅減となったものの、チェーンストア向け法人直需部門は増収となりました。

一方、利益面では、連結では粗利額の減少と、たな卸資産評価損（約 37 百万円）を計上、海外販売代理店に対する債権への貸倒引当金繰入額計上等があり営業損失となりました。経常損失及び四半期純損失につきましてもその影響を受けました。個別では、売上高の減少による営業損失となり、経常損失は貸倒引当金繰入額計上により損失、四半期純損失につきましても、関係会社に対する株式評価損（約 23 百万円）を特別損失として計上した結果、大幅な損失となりました。なお、下半期予測は国内 LED 関連の伸長を受け上半期に比べ増収・増益を予想していますが、通期では上半期の損失が大きく下方修正となります。

（注）本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 特別損失の計上

個別で連結子会社の業績悪化に伴い関係会社株式評価損 23 百万円を特別損失として計上いたしました。

以上